

瀬戸内市歴史まちづくり財団 歴史講演会

たからもの び ぜんとう ほうのうとうけん めいぶつとうけん ちゅうもんうち  
宝物になった備前刀 — 奉納刀剣、名物刀剣、注文打

東京国立博物館 佐藤寛介

## はじめに 日本刀の特質

- (1) 日本刀は生殺与奪の武器として本質的な「切る」という機能を極限まで追求した存在。
- (2) 極限まで機能を追求したものには「機能美」が備わり、機能美から「靈性」が生まれる。
- (3) 刀剣研磨によって日本刀の美的な要素（刃文、地鉄）が引き出され、靈性がより高まる。
- (4) 卓越した機能美と靈性をもつ「名刀」には人智を超えた靈威が宿り、崇拜の対象、権力の象徴となる。
- (5) 靈威を宿した名刀は、時代を超えて人々に受け継がれ、伝承や由緒をつむぎ、まとい、「宝物」となる。

## 1 宝物になった日本刀

### (1) 国宝、重要文化財の刀剣

文化財保護法に基づき国が指定した、歴史的、芸術的、学術的に価値の高い刀剣。

国宝の刀剣 111口（うち備前刀 47口）、重要文化財の刀剣 810口（うち備前刀 336口）

### (2) 御剣（皇室の刀剣）

皇室（天皇家）に伝来する御由緒物（御物）の刀剣、皇室から国に移管された旧御物の刀剣。

御由緒物：「太刀 銘 備前国友成（鶯丸）」足利義教（足利将軍家）→小笠原政康（小笠原家）→明治天皇

旧御物：国宝「太刀 銘 備前国長船住景光（小龍景光）」楠正成？→井伊家、山田家→明治天皇

### (3) 御神体の刀剣、奉納刀剣

神霊そのものの刀剣、神霊に捧げられた刀剣。世界の刀剣文化の中でも極めて特異な存在。

御神体の刀剣：神霊の依代として崇拜の対象となる神聖な存在

「天叢雲劍（草薙劍）」熱田神宮（愛知県）、「布津御魂劍」石上神宮（奈良県）

奉納刀剣：祈りや願いを込めた神器であり、武器としては未使用のものが原則

### (4) 名物刀剣

広義には優れた造形や伝承由緒に基づく固有の名を与えられた刀剣。狭義には刀剣鑑定を家

職とする本阿弥家が江戸時代にまとめた「享保名物帳」に記載された刀剣。将軍家や大名家など高位の武将が所持し、武家の歴史と権威の象徴として継承され、贈答儀礼に用いられた。

### (5) 注文打（為打）

武将の依頼により、特注品として製作された刀剣。量産品（数打）と比べ美術刀剣として優れていると共に、銘文の情報量が多いため歴史資料としても重要。戦国時代の備前刀に多くみられる。

## 2 奉納刀剣の備前刀

- (1) 国宝「太刀 無銘 (名物 <sup>にっこういちもんじ</sup> 日光一文字)」 鎌倉時代・13 世紀 福岡市博物館蔵  
福岡一文字派の傑作。日光権現→北条早雲(小田原北条氏)→黒田<sup>よしたか</sup>孝高(福岡藩主黒田家)。
- (2) 国宝「太刀 銘 助真 (日光助真)」 鎌倉時代・13 世紀 日光東照宮蔵  
福岡一文字派の名工・助真の傑作。徳川家康の愛刀。加藤清正→徳川家康→日光東照宮。
- (3) 重要文化財「太刀 銘 □□国則宗 (名物 <sup>ふた つめいのりむね</sup> 二ッ銘則宗)」 鎌倉時代・13 世紀 愛宕神社蔵  
後鳥羽上皇の御番鍛冶・則宗の傑作。足利尊氏(足利将軍家)→豊臣秀吉→愛宕神社。
- (4) 岡山県指定重要文化財「太刀 法光」 文安 4 年(1447) 吉備津神社蔵  
全長 377 cmを誇る全国最大級の大太刀。薬師寺<sup>ひさもち</sup>久用奉納。長船刀工の高い技術力を物語る。

## 3 名物刀剣の備前刀

- (1) 国宝「太刀 銘 備前国包平作 (名物 <sup>おおかねひら</sup> 大包平)」 平安時代・12 世紀 東京国立博物館蔵  
古備前包平の代表作。岡山藩主池田家伝来。その名は雄大な造形に由来する。
- (2) 重要文化財「太刀 銘 □忠 (名物 <sup>うすみどり ひさまる</sup> 薄緑/膝丸)」 鎌倉時代・13 世紀 大覚寺蔵  
清和源氏の重宝「薄緑/膝丸」の伝承をもつ刀剣。鎌倉時代の備前刀の特徴を備える。
- (3) 国宝「太刀 銘 長光 (名物 <sup>つ だ おとうみながみつ</sup> 津田遠江長光)」 鎌倉時代・13 世紀 徳川美術館蔵  
長船長光の傑作。織田信長→津田遠江守重久→加賀前田家→徳川将軍家→尾張徳川家。
- (4) 国宝「太刀 無銘一文字 (山鳥毛)」 鎌倉時代・13 世紀 備前長船刀剣博物館蔵  
上杉謙信・景勝の「御手撰<sup>おてせん</sup>三十五腰」の一つ。華麗な刃文が名の由来。上杉家秘蔵の御家名物<sup>おいえ</sup>。

## 4 注文打の備前刀

- (1) 重要文化財「太刀 銘 備前国長船住左衛門尉藤原朝臣則光 於作州鷹取庄黒坂造 鷹取勘解由左衛門尉菅原朝臣泰佐打ス之 長禄参年己卯十二月十三日」 長禄 3 年(1459) 東京国立博物館蔵  
長船<sup>のりみつ</sup>則光が鷹取<sup>たかとり</sup>荘(勝央町)で作刀。鷹取泰佐が權益保持と赤松氏との関係強化を図り依頼？
- (2) 「短刀 銘 備州住長船勝光 長享二年九月日 御陣作之」 長享 2 年(1488) 備前長船刀剣博物館蔵  
勝光<sup>かつみつ</sup>ら長船刀工が足利義尚<sup>よしひさ</sup>の鈎<sup>まがゆ</sup>の陣<sup>じん</sup>(滋賀県)に出向いて作刀。赤松氏と浦上氏の政治的演出？
- (3) 重要文化財「刀 銘 備前国住長船次郎左衛門尉勝光 子次郎兵衛尉治光 一期一腰作之 佐々木伊予守」 室町時代・16 世紀(1510~20 年代) 乃木神社蔵  
長船勝光<sup>はるみつ</sup>と治光<sup>あまごつねひさ</sup>による尼子経久の注文打。出雲守護権獲得と「伊予守」任官の記念？毛利家奉納。
- (4) 「薙刀 銘 備前国住長船次郎左衛門尉藤原勝光 同与三左衛門尉祐定 為宇喜多和泉守三宅朝臣能家作之 永正十八年二月吉日」 永正 18 年(1521) 個人蔵  
長船勝光<sup>すけさだ</sup>と祐定<sup>うき</sup>による宇喜多<sup>な</sup>能家<sup>よしいえ</sup>の注文打。主君浦上氏の備前掌握と「和泉守」任官の記念？

## まとめ 日本刀と備前刀の存在意義と瀬戸内市

- (1) 「日本刀」は、武士(日本人)の精神、美意識、本質を具現化した日本文化の象徴の一つ。
- (2) 「備前刀」は日本刀の王者。瀬戸内市の歴史と文化の象徴として世界に誇りうる宝物。